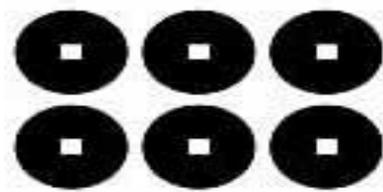


真田で楽しく！元気に！暮らしたい人のための月刊フリーペーパー

# 「仮称六文銭」準備号

4月創刊まで、あと2号！

事業の愛称を募集中！詳しくは中面をご覧ください



2010年2月15日発行

撮影 スタジオセブン 佐藤和雄



孫と節分



真田地域で暮らす、元気なお年寄り子ども、新成人の写真を表紙にしました。  
今回、大きな写真で登場するのは、牧内寛一さん（大正2年生まれ）です。「木彫」が趣味で、お部屋にたくさん飾ってありました。右下は、日本舞踊で活躍されていた若い頃の牧内さんです。2枚とも着物姿が素敵ですね。

真田地区の新生児、新成人、還暦、100歳の方の写真を募集中！ 掲載は無料です。掲載希望の方は、巻末に記した編集部まで写真を送付いただくか、メール（[kawaraban@ued.janis.or.jp](mailto:kawaraban@ued.janis.or.jp)）にデータを添付ください。

## 「横尾を語る会」

会 長 神田喜久雄さん (昭和15年1月31日横尾自治会生まれ・写真右)

副会長 菅沼 正弘さん (昭和16年2月6日横尾自治会生まれ・写真左)



「横尾を語る会」は真田町誌民俗編の横尾地区の調査委員を委嘱された鈴木優さんを含む4名が発起人です。調査を進めるごとに、横尾に居ながら、縄文・弥生時代から、横尾の名がはじめて現れる西暦1400年の大塔合戦のころまでのことが全くわからず、近年100年の書物など書き残されたものが極めて少なく、言い伝えに頼るほかないことから、「書き残す」ことにより次の世代に横尾を伝えることを目的として平成8年に発足しました。現在の活動メンバーは18名ほどで、毎月10日に公民館に集り、横尾について熱く語り合っています。

最初の活動は平成8年12月、史跡や遺跡などの説明を書いた立て札を市神様(いちがみさま)などの6か所に、尾引城などへの道しるべを4か所に、手作りで立てました。今では18か所の立て札を設置しています。そして、横尾の生活風俗の紹介や、縄文時代から聖域といわれている「千古の滝(写真左)」の特集などさまざまな企画を盛り込んだ月刊「横尾の今昔」を創刊し横尾区全戸配布を始めました。

この「横尾の今

昔」は平成18年9月に第100号に達し、一区切りとなります。そして平成21年度に「上田市わがまち魅カアップ応援事業」において、「横尾の歴史と文化を守り、区民の触れ合える里横尾」事業が認められ、各名所の今昔対比写真などを追加し、一部カラー製本されることとなりました。今年のお盆のころには完成予定です。秋には横尾区全戸へ発行予定です。

今でも自治会運動会が盛大に行なわれる横尾神社には、「千古

の滝」のポットホール(すり鉢状の深い穴)で永い年月をかけて出来上がったと思われるドリルストーン(丸石・写真上)が神様から贈られた縁起物として奉られています。この石はとても硬く重いもので、遥か上流の大倉地区から流れてきたものといわれています。横尾の住民の方は、ほとんどの家にこの縁起のいい石があるといわれています。

諸先輩方の手作りの継続努力のおかげで会の運営も順調に進んでおりますが、今後の会の発展のためにも、横尾に移り住んでこられた方や、若い世代の方にも関心を持っていただき、溶け込みやすい体勢作りも必要だと考えています。



(左)横尾の案内板。パンフレットも教育事務所などに置かれています

(右)市神様

# おらが **1番!**

真田に住む方々の“プチ自慢”を聞くこのコーナー、第2回目は、

曲尾自治会にお住まいの <sup>かいせ まさゆき</sup>海瀬 正之 さんをインタビューしました。

おら地元の民話を作っている。昔からの言い伝えを題材にしてな。創作民話ってやつだな。

農業委員会の研修で新潟県栃尾市に行ったとき、その土地の人が先生を呼んで地元の民話を作っているのに感動した。それで民話作りをやりだした。おらの住んでるところにもいっぱい良いところがあるからな。

もう6編作った。母ちゃんが有線放送の朗読で読んでくれた。自治会の広報誌「ねごや」にも載せてもらい、いきいきサロンでも披露した。大好評だ。退職したし、これからも作っていくよ。

でも民話も自慢だが、おらの一番の自慢は母ちゃんの徳子さんだ。なんたって山の神だもの。



海瀬正之さん（76歳）と徳子さん



ふるってご参加ください!!

## 更なる発展と地域の支え合いをめざして **真田の郷 みんなのつどい**

2月20日（土） 午後4時～6時  
真田公民館(旧真田町文化会館) 大ホールにて  
主催◇真田の郷 みんなのつどい開催実行委員会  
上田市社会福祉協議会、真田地区センター、  
真田町商工会(青年部)、社会福祉法人恵仁福祉協会

### ◆講演会

地域医療をすすめる医師・矢嶋嶺（やじまたかね）さんが、『むら・まちで元気に生きる むら・まちと元気に生きる』と題して、面白おかしくお話しします。大笑いできる講演会になるはず！

### ◆発表会

真田の郷を元気にするために頑張っている人たちの話を、聞こう！話そう！つながろう！



矢嶋 嶺さん

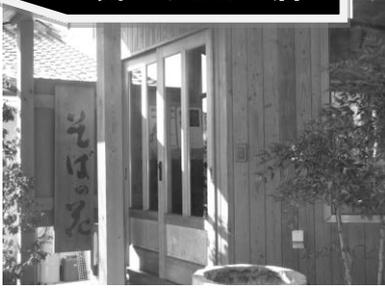
### 事業の愛称を募集します！

締切は2010年3月15日（月）必着分まで。  
選ばれた方には、素敵なプレゼントをご用意！  
詳細は前号をお読みください。

### 同時開催

◆真田傍陽線廃線記念（2月20日）展示会  
期間：2/16～23 11:00～16:00  
ギャラリーSaana（アザレアさんだ敷地内）にて





## 石臼挽き 十割そばの店「そばの花」

真田町傍陽 410-14 TEL: 75-3326

定休日 火・水・木

住宅地の一角にある、落ち着いた店構え。木をふんだんに使ったモダンな店内は、おそば屋さんとは思えません。店自慢のつなぎを使わない十割そばは風味が良く、そばは細めですが歯ごたえがあり、満足感たっぷり。生のそばを揚げて、キノコや野菜たっぷりのあんをかけた「揚げそば」も好評です。「もりそば（大盛り・追加もあり）」「かけそば」のほかに、デザートとして「そばようかん」や「そばがき汁粉」があり、油揚げを使ったこだわりの「揚げ煮」も評判です。ほのかに甘い「そばようかん」には、そばのおいしさが凝縮されています。



茨城県生まれのご主人と、東京生まれの奥様が2人で営まれています。20年前に真田町に移住し、ご主人の趣味が高じて、定年後の2004年1月から営業を始め、今年で7年目です。現在は年齢的にもきつくなってきたから…ということで、月・金・土・日曜の週4日間、昼のみの営業です。ご主人自慢のそばを味わいに、訪れてみてはいかがでしょうか。



### 読者の交差点

▼高校卒業を機に真田町を離れ 25 年になります。先日、帰省した際に準備号を拝読し、偶然身内の者が表紙を飾っており、本人に「よかったね」と声をかけて一緒に喜びました。「気になるあの店」は、グルメ好きの私には、興味深い情報でした。また、「統計で知る真田」の内容は、高齢化の実態がわかりやすくまとめられていました。安心して、充実した生活を送りたい気持ちはどこに住んでも同じです。そのためにも子育て、教育、医療介護、お店などの情報は、住民でシェアしていくべきだと思っています。いきいきした町づくりにつながる情報紙として期待しています。(坂口雅彦さん) ▼「元気そうな表情を見て、100 歳とは思えません」と懐かしがって電話をたくさんいただき、忙しくうれしい毎日でした。(坂口かねをさん) ▼「大正、昭和、平成、いろいろあったでしょうに…坂口さんのように年を重ねたいね」と地域の新年会での仲間の声。好評でした。(Y.Nさん)

### 編集後記

●お元気な皆さんにパワーをいただいています。[大野幸子] ●内容を問わず「耳よりな話し」をお待ちしています。[田中文子] ●とても前向きに活動している方々に感動しています。[田中晋]

発行元：真田で楽しく！元気に！暮らしたい人のための月刊フリーペーパー「仮称六文銭」編集部  
事務局 高齢者総合福祉施設アザレアンさなだ内

〒386-2201 上田市真田町長 7141-1 TEL 0268-72-2781 FAX 0268-72-4702

E-mail kawaraban@ued.janis.or.jp ホームページを開設準備中！

準備号を読まれてのご意見、ご感想をお寄せください。次号は2010年3月15日の発行です。